

# (仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

## 第5回ワークショップ会議録

日 時：平成23年12月11日（日） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市役所 第4分庁舎 811 会議室

参加者：公募市民：13名 関係団体：10名 計：23名 傍聴者：21名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

花上課長、加藤課長補佐、根本事務職員

(財)漁港漁場漁村技術研究所

大塚職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生4名

### プログラム

#### 第1部

- ①第4回ワークショップで出された意見
- ②これまでの主な関心事項について
- ③ワークショップ報告（素案）について

#### 第2部

- ④グループワーク
- ⑤グループ発表
- ⑥意見交換

終わりに

- ⑦次回のご案内

### 配布資料

第5回ワークショップ 次 第

資料－1：第4回ワークショップでのグループワーク意見

資料－2：第4回WSでのアンケート調査結果

資料－3：事務局からの追加説明

補足資料：ワークショップの進め方についてのアンケート調査表

## 第一部

### ① 第4回ワークショップで出された意見

「第4回ワークショップで出された意見」について、事務局の(財)漁港漁場漁村技術研究所大塚職員から配布資料の「資料-1:第4回ワークショップでのグループワーク意見」及び「資料-2:第4回WSでのアンケート調査結果」により説明を行いました。

### ② これまでの主な関心事項について

「これまでの主な関心事項」の以下の四点について、事務局の産業振興課加藤課長補佐から配布資料の「資料-3:事務局からの追加説明」により説明が行われました。

- ・環境アセスメントと費用対効果分析
- ・鎌倉漁港対策協議会での検討経緯
- ・海岸の管理（神奈川県と鎌倉市の関係）
- ・鎌倉市 水産業振興の基本方針

### ③ ワークショップの報告（素案）について

「ワークショップの報告（素案）」について、ファシリテータ（以下「FT」という。）の齋藤氏から「第5回WSと今後について」のFT私案について、説明が行われました。

## 第二部

### ④ グループワーク

「共存のための課題と解決の可能性」「漁対協案に対する代替案の検討」「新たなワークショップの立ち上げとその支援」「これまでの主な関心事項について（環境への影響、費用対効果、検討経緯、行政関与、産業など）」をテーマに、参加者5グループ及び傍聴者2グループによるグループワーク（以下「GW」という。）が行われました。

### ⑤ グループ発表

GWで協議された内容について、各グループから約1分で発表が行われました。

### ⑥ 意見交換

FT：多様な価値観が併存している海岸ですが、何となく振出しに戻ってきました。建設するかしないかに話題が移ってきました。皆さん色々な立場の人が一緒にいるのはおわかりですよね。その時に自分が持っている権利なり価値を誰かに否定されるということについては、他人はやっぱり同じようにダメージを受けるということ、よく了解した上で共存の方向を考えていただきたい。

ただ反対だというのではなしに、どうしたら良いか、ということを考えていただけ。そうしないとせっかく集まって議論しても、自分の意見を述べただけで、羅列されただけで終わってしまうので、創造的でないというか、建設的でないというか、これだけの人が集まっているのにちょっと残念な気がします。それとワークショップ（以下「WS」という。）のやり方についても、まだ色々疑問点があると思いますが、あと10分ほどしかなくなってしまったので、ここで意見交換ということで、どなたか今後の進め方等について、あるいは来年度に向けたメッセージとして思いついたことがあればお願いします。

参加者：5回に亘ってWSに参加して、皆さんが本当にその間、一生懸命我々の事業について理解をしようと努めてきてくださったことはとても感謝しています。この中で明らかになってきたことは、漁港を造るということは単に漁業者の問題ではないのだということが、各テーブルの皆に、共有された一つの問題ではないかと思います。要するに漁港というのは、鎌倉市民にとってどういうものであるべきなのか、という議論をしなければいけないのだと。そこが本当は入り口だったはずなのに、どんどんハードウェアのことばかりがフィーチャーされてしまったことで不信感を募らせてしまったのではないかと感じました。ソフトウェアという言葉がこのグループでは使わせてもらいましたが、漁業を含めた第一次産業をこれからどのように推進していくのか、というビジョンを、やはりもっと比重をおいて話し合っていくべきではないのか。今回のWSは直接の利害者、漁業者と近隣住民という形で話し合っていますが、今の産業振興ということで話を進めるということになると、直接の利害者がもっと広がるわけで、漁業者と鎌倉市民という大きな枠組みになっていくわけだから、大きな枠組みを包括するような、WSなり、それに代わるようなものを、言わばこのWSの発展形として開催していく必要があるんじゃないかと思えます。

参加者：私個人でも、色々な意見の中でも、漁港はそんなすぐには無理で、国のお金のこともあるし、10年や20年では無理、まあ少なくとも10年ぐらいは無理だろうと。ただ、それと同時に確実に問題がある。それは台風の時の被害です。この場所というのは産業振興なのかなと。だからどうしてもその話に深くいけないのかもしれませんが、それはできる限り早く解決したほうが良いと思います。なるべく台風被害に対する対策を、船をどこに逃がすか、それから小屋をどうするか、建替えることはできないのか、もうちょっと水に強いものは造れないのか、それをきちんと漁港とは別に対策を立てる場なり組織なりを、市としてやってもらいたい。それを一つの提言として出してもらいたいと思います。

F T：これまで何度も台風の被害を受けて、その対策をやってもらいたいというお話でした。

参加者：さっきFTが「振出しに戻って残念だ」と言われたが、逆にすごく残念だと感じました。先ほど我々のグループでは逗子マリーナを真剣に、もう少し協力を得て、あるいは小坪漁港、逗子市と協力して朝市などを開催することとバーターで、使用料を安くできないかなど、かなり具体的な解決策も、ちゃんと住民の側と漁業者の方と出てきている。他のグループもすごく良い解決策とか考え方が出てきているはずで、それをちゃんと拾っていただいて、その質をブラッシュアップして、我々だったり市民だったりに提示していただくのは、WSの主催者と市の大きな責任だと思います。だから次回しっかりやっていただきたい、というのが一点です。

それともう一点、先ほどの意見で言われたように、地域活性とか産業振興で考えると、我々だけでなく近隣の漁港であったり、逗子マリーナのような観光業者であったり、あるいはもしかすると市内の小売店・飲食店などすごく幅広く影響が出てくる問題だと思います。WSで集まって直接話し合うのはすごく有意義ですが、皆さんお忙しいし、全部言い切れないとなった時に、もう少し市の方でホームページなりウェブを使って、ある一定の期間に少なくとも市民の半数の方から何らかの意見をもらえるような仕組みを考えてそれを実行すると。そこで出てきた市の過半数の意見、要望をしかるべき団体あるいは関係者が出てきて議論する。そういうきちんとした検討プロセスを次年度考えていただきたい。そうでないと同じ形式でやっても来年度も振出しに行ったり来たりして、それを参加者や主催者の責任にされたりイタチごっこのようなことが起きてしまいます。だからその検討プロセスはしっかりお願いします。以上の二点をお願いしたいと思います。

参加者：色々な資料やお話を聞いて漁業者の方と行政の情報はいただいています、具体的に反対している方、代表者とか立ててもらって一度プレゼンしてもらってはどうか。例えば防災対策とか、坂ノ下のあの辺りに住んでいる方たちにとって具体的にどのくらいデメリットがあるのかとか、反対する方の詳細がもう少し知りたかったです。環境保全とか一般的な意見ばかりなので。どれだけ反対者にとって重大な問題なのかを具体的に聞いてみたいです。

参加者：繰り返しになりますが、是非そこを市のホームページなりウェブを利用して広く市民の声を集めていただきたいし、私の周辺、近隣住民とか近隣の小学校や幼稚園の保護者から聞いた一般的な感想は、震災が起きて国とか行政の優先順位が変わっている。しかも市の財政もきちんとしていない、非常に厳しいと。その中でいきなり漁港建設というのは無理があるのではないかという疑問は相当多く、私が関わっている市民の方々から聞いています。そういう現状だけはちょっとお伝えしたい。

参加者：数字とか具体的に。世間一般で震災が大変だとか、もっと具体的に誰か代表者が出て説明してもらった方が良いと思います。

参加者：反対するわけではありませんが、自分が色々調べてきて今日もこのテーブル

で話していたことの一例として紹介させていただきます。全国の漁港や海岸人工構造物で起こっていることがやはりあって、調べてみました。具体例でいうと、茅ヶ崎は昭和62年に漁港が出来てから約25年経ちますが、漁港を造るのに35億円使っています。その後の約10年間に実は養浜工で70億円使っています。合計100億円です。造った費用の2倍以上のものを、たぶん造った当初は想定せずに、これまでいってしまっています。お金の問題もさることながら、造って砂浜がえぐれるというのは、漁港のせいだけではなく、ダムがあって、そのため川の上流から海への砂の供給がほとんどなくなってしまう、そういう状況があって、市民も巻き込んで、専門家も入れてこの後どうしていこうかという広い議論をしています。一事例として近隣のまちでそういうことが起こっている、費用がかかっている、なおかつこれからかかり続ける、という現実を見た時に同じ轍を踏んではいけないと、我々も検討しなければいけないと思っています。ただ、このWSではそういった環境の専門家はいません。来年度も継続した時にソフト的なことは市民も巻き込んで議論すれば良いと思いますが、これまで鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）が議論してきた場所、長年かけてやってきた検討経過との整合というか、それをどう捉えていくのかといった時にやっぱり漁港の位置、その位置による影響はかなり違いが出てくると思います。今のⅡ案は海にせり出す形になるので、自然に対する色々な抵抗をしないといけない案になっているし、それ以前に議論されてきた掘り込み式はお金が無いから駄目だろうということで漁対協ではやったのだと思いますが、先ほど言った30億円、70億円、100億円をこれまでかかってきた費用と捉えると、費用対効果の部分の考え方が変わってくるのではないかと、つまりはソフトの面、産業振興の面で考えると、掘り込み式の方に可能性があるのではないかと。そのあたりを振出しに戻るといいますか、改めて過去に漁対協が提示した案じゃなくて、もう一度最初から議論するべきではないかと思っています。あと、反対意見のプレゼンも必要ですが。私は、確かに今、Ⅱ案は反対ですが、そうではなくて鎌倉市の中で漁協があって、マリンスポーツも周りにある中でどうしていったら良いか、ということを考えている人間だし、そういう場だと思っているので、賛成者、反対者と対立するような議論の進め方は、私は大反対です。

参加者：次回、WSは開いていただきたい、来年度ぜひ継続していただきたいというのが前提です。私は建築が専門なので建築の話になってしまいますが、例えばある新しい建物が建つ、という時に、図面を見ても一般の方はよくわからないと思います。話を聞いてもわからないが、できてしまうと、こんなものだとは思っていなかったとか、こんなにすごくなってしまったのだったら、最初からもうちょっと検討しておけば良かったということになります。今回、図面を出していただいていると思いますが、おそらく一般の方々が実際に出来た時のイメージを掴みきれしていないと思います。なので、反対・賛成意見が出るとかは既に参考意

見だと捉えて、とにかく今のうちから全部意見を出していただきたいので、少なくとも模型のようなものを前提に説明、できれば現地に行って、何らかの方法で現地で規模が可視化できるような方法論を考えて、そこで確認できればとても良いと思うのですが。そういった机上だけではない方法論でみんなの意見を募るようなWSを来年度ワーキングできたらと思います。

参加者：本日、WSも第5回となりましたが、我々はこの4か月間どういう目的でどういう意識でここに集まったか、ということを考えてときに、提案があるのですが、来年度もWSは続けてほしいと、個人的には希望していますが、そこに対しては、毎回毎回議論が発散していたという感もあるので、来年にもう一回ありますが、どういうテーマがあがってきて、これにはこういう利害と固執があるというのを整理して、ぜひ次のWSに対しては、費用の問題もあるが、分科会方式、テーマ別に小グループ化して、そこで議論の範囲を絞りながら整理をしながら、それで全体会にかけるとか、そういうことができれば、良いのではないのでしょうか。予算上可能かどうかという話がありますが、毎回皆が同じレベルで色々なテーマに対して、ということは議論が発散してしまっていたような気がします。ぜひ次はそういった、時間を効率的に使うための議事進行、あるいはWSという流れが、できるかどうかわかりませんが、そういう進め方のストラクチャを考えていただけるとありがたいです。

F T：望み通りにできるかどうかわかりませんが、工夫はします。

参加者：先ほど今回の流れが残念だったという話がありましたが、それに対して非常に憤りを感じます。皆さん5回やってきた中で、自分も「反対からやっても良いか」になり、「やっぱり無理があるか」と思ったり、ちゃんと色々な話を聞いて、今このようになってきているわけだから、あのような言い方をされると、漁港を造りたい意図を感じてしまうので、今回まとめたり、次回に向けてやるにあたって、皆さん色々な話を聞いて今、こうなっているのだから「残念」というのはおかしいと思います。そこはもう少しちゃんと公平に現実を捉えて、次回のまとめを作るなりやっていただきたい。「残念」というのは残念です。

F T：「残念」というのは反対論が出たから「残念」というのではなく、振り出しに戻って、建設するかしないかに話題が移ってきて、反対・賛成論が出てきたので「残念」と申し上げたのです。

参加者：だったら、時間が足りないのだと思います。皆代替案とか言っているが、時間が無いのでこうするしかなかった、というのが結果なので、もっと議論ができる時間があればもっと色々出てきたのではないかと、各テーブルから色々出ています。それをやりたいならそのようにやっていかないと、こういうことを続けるだけで終わってしまいます。先ほど提案がありましたが、次回に向けてはそういうところをちゃんと考えていただきたいと思います。

終わりに

事務局から次回の開催予定、閉会挨拶を行いました。